■極東経済フォーラム

ERINA理事長兼所長　吉田進

極東経済フォーラムが2006年10月４～６日、ハバロフスクにて開かれ、ロシア国内から26の自治体、国外から15カ国が参加した。このフォーラムは昨年開かれた極東経済国際会議とは別枠で組織されたものである（国際会議の方は２年に一度、来年は、沿海地方かアムール州で開かれるという）。

１．フォーラムの構成

第１日目：サハリン１主催によるデカストリ港からの原油輸出記念行事と祝賀パーティ。この日は同時に、サハリン１のガスがコムソモリスク－ハバロフスクのガスパイプライン完成によりハバロフスクに初めて導入された記念パーティでもあった。この記念行事ではプロジェクトの概要、用いられた新しい技術、その経済効果などが紹介された。

第２日目：フォーラムの開会。ハバロフスク歌舞団の歌と踊りから始まり、開会宣言を行った。

まずグレイズロフ下院議長がプーチン大統領の挨拶を代読、あわせて挨拶をした。引き続きロシア科学アカデミー・ネキペーロフ副総裁、イシャエフ・ハバロフスク地方知事、

ノーベル経済学賞受賞者ロバート・マンデル・コロンビア大学教授、産業エネルギー省I. S. マテロフ次官が挨拶。その後、代表的な会社代表の基調報告が15分ずつ続いた。その中には、ロスネフチ（S. M. ボグダンチコフ社長）、トランスネフチ（I. G. ソリャルスキイ副社長）、アリアンスグループ（M. Y. バジャエフ社長）、アエロフロート（V. M. オクーロフ社長）、ガスプロム、統一エネルギーシステムなどの有名企業が入っていた。

第３日目：８つの分科会（人口問題、エネルギー、輸送、木材、漁業、投資、観光、先進技術・通信技術）が開かれた。人口問題は、プーチン大統領が問題提起した後、各地で論議されている。その他の分科会では、極東地域が持っている諸問題が討議された。最後に総括会議が行われ、８つの分科会の議長報告、イシャエフ知事とイサエフ下院副議長の締めくくりの挨拶があった。

２．エネルギー分科会

全体会議でもエネルギー問題で数多くの発言があったが、このセッションでは、サハリン１（S. テルニ・エクソン石油ガス社長）、サハリン２（I. イグナチエフ・サハリンエナージ副社長）の報告があり、太平洋石油パイプラインに関連した新石油産地の開発と輸送問題で、A. サプロノフ・ロスネフチ副社長の報告があった。エネルギー共同体の問題は、N. ヴォロパイ・エネルギーシステム研究所所長から提起された。また金の開発・生産についても発言があった。地域としては特にマガダンとサハ共和国（ヤクーチア）が取上げられた。

３．所感

⑴　今回のフォーラムの性格

①極東としてロビイストの確保

極東の下院議員は14名。小さな会派も構成できない。そのため、モスクワから代議員に極東にきてもらい認識を深め、愛着を持ってもらう。今回は170名来る予定だったが、グルジア事件の発生で70名となった。プーチン政権は2007年12月の選挙を通じて２大政党体制を作りたい。そのためには「統一ロシア」がまず雰囲気を盛り上げる。今回、イニシアティブをとったのはグレイズロフ下院議長。彼は、「統一ロシア」の党首であることから、会議では下院と「統一ロシア」の両方がイニシアティブを取った。

②学会との結合

科学アカデミーの参加。世界経済・国際関係研究所シモニア所長、極東研究所チタレンコ所長、科学アカデミー極東支部セルギエンコ総裁、地質学研究所所長ボグダノフ科学アカデミー会員、極東経済研究所所長ミナキル科学アカデミー会員など著名人が参加した。

③国際性を持たせる

15カ国からの招請。サハリン１プロジェクト関係者。日本からも新日鉄エンジニアリング羽矢惇社長、サハリン石油ガス開発（SODECO）羽山正孝社長、経済産業省ロシア室・山下文夫課長補佐、石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）、三菱商事、伊藤忠石油開発等の代表が参加した。

④サハリンプロジェクトとの関連付け

今回はサハリン１のデカストリ積出港の完成、原油輸出開始、ハバロフスクへのガス供給開始などの祝賀祭典を結合させた。

以上のように、１つの会議に多角的要素を組み合わせていた。

⑵　会議の進め方

会議の進め方として、全体会議－分科会－総括会議の流れを成しており、時間厳守、最終の手短な各分科会の報告など、会議運営上の観点から見るとハイレベルにあった。レヴェンタリ副知事が司会、時間の采配を振るっていたが、その効果が目に見えていた。

⑶　サハリン１はハバロフスク州との関係が深いので、ハバロフスクが自らのイニシアティブでその成果を大いに祝った。サハリン１にはロスネフチが参加しているので、サハリン２のように環境派の攻撃をそれほど受けていない。また環境監督局が検事総長と一緒になって環境問題で事件を起こすようなこともない。デカストリ積出港の建設で、環境監督機関が問題提起していたが、原油の積み出しは順調に進み、サハリン２との差が大きくなった。

⑷　太平洋パイプラインの建設によってアジア太平洋諸国への石油輸出は大きく伸びる。現在アジア向けの輸出は３％であるが、2020年には30％となる。電力は、ブレヤ水力発電所が完成すると200万KWとなる。ヤクーチアでは褐炭を原料として大型火力発電所を計画中である。これらの電力は、極東地域の電力不足を解消し、中国、韓国、さらに将来的には北朝鮮へ提供される。またガス計画も立案中であり、ロシアの北東アジアとの関係は年々大きくなる。北東アジアエネルギー共同体構想が動きはじめてもおかしくはない。今回のフォーラムはこの構想の基礎となる共通の認識を深める上で極めて有意義であった。